

「よしもと新喜劇」が何度見ても面白いのはなぜ？

古本莉彩 村上陽香

1. 緒言

◇研究概要

大阪在住の人なら、一度と言わず何度か見たことがあるであろう「よしもと新喜劇」。演者も内容もコンセプトもあまり変わらないのに、長く愛され、私たちに何度も笑いをもたらすのはどうしてだろう。その疑問を追究すべく、脚本から見るストーリーという観点、映像から見る動きや言葉という観点で、仮説をいくつか立て、考察した。

◇よしもと新喜劇

毎日放送で毎週土曜日のお昼頃に放送されているコメディ番組。

「よしもと新喜劇」は、「笑いのみを追求しているか」という点で他の演劇の喜劇と大きく異なる。よって、演劇と「よしもと新喜劇」は違うものであるとする。また、これ以降で新喜劇と比べる対象は、一般的にネタ時間が4分程度で、2人～5人程度で行う漫才やコントとする。

◇笑いが生まれることの定義

- ・おかしみが生じるのは、威厳をもった人物なり事柄なりが、ほかに強い情動をかきたてるもののない状況でその威厳を失墜した場合である。———A.ペイソ
- ・笑いはある張り詰めた期待が突如、無へと変わることによって生じる一つの情動である。
———カント
- ・期待の無化が笑いを生む場合、どこか照れに似た自己反省がある。———井山弘幸

2. 方法

◇劇の選択

今回は、数人の座長の中から、ストーリー性や言葉や演者同士の掛け合いに重点を置いている、こやぶかずとよ小藪千豊さんが座長の劇に絞った。その中でも、2012年11月10日放送。作・演出、おおさきともひと大崎知仁さんの『王女しまっせ！』という劇を調べた。

◇『王女しまっせ』あらすじ(以下敬称略)

うどん屋従業員で仕事をさぼりがちな小藪は、大将のしみけんに、真面目な安井といつも比べられる。ある日、安井はヨシモト王国の美人なお姫様、靖子王女と、小藪はモトヨシ王国の今別府王女と出会う。

以下の図は主要な出演者とキャラ設定における役割をまとめた表である。

演者 (敬称略)	小藪千豊 (以下小藪)	清水けんじ (以下しみけん)	浅香あき恵 (以下あきえ)	安井まさじ (以下安井)
特徴	うどん屋さんのアルバイト。 さぼり癖あり。 よく嘘をつく。	うどん屋さんの店長。	清水の妻。	うどん屋さんのアルバイト。 小藪と違い、真面目。
役割	話の核を担う人物。	一貫してつつこみ。 話を進める。	清水に同調し、つつこみに説得力を持たせている。	終始小藪との対比で笑いを生む。
演者 (敬称略)	すっちー	桑原和男 (以下桑原)	高橋靖子 (以下靖子王女)	今別府直之 (以下今別府王女)
特徴	うどん屋さんの近所に住むおじさん。	清水のお母さん。	よしもと王国から来た王女。	もとよし王国から来た王女。
役割	物語を転換させる役割で、いろいろな事件を持ち込む。	あきえと同じく、清水に同調する。	安井の誠実さを持ち上げ安井のキャラを確実なものとする。	靖子王女の比較対象。

◇脚本からの仮説

- I 劇の時間が50分と長いので起承転結にかける時間も長くなり、幅広い演出ができる。
- II 1つの劇に対して、出演する演者の数が多いので、たくさんの演者同士の掛け合いから笑いを生むことができる。
- III ギャグや話の流れがわかるからこそ、展開を期待し笑いが生まれる。
- IV 社会的立場と演者が組み合わさることで、演者の個性が残った新たなキャラクターが生まれ、新鮮味や意外性によって笑いが生まれる。
- V 日常会話を基軸としているので、予想外の言葉や出来事の発生による笑いを生みだしやすい。

◇映像からの仮説

- I 動きの意外性による笑い。
- II 行動が伏線となり生じた期待による笑い。
- III 見た目のおかしさによる笑い。
- IV 上記すべての要素を満たしていることによる笑い。

◇劇場とテレビ放送の違いの仮説

- ・ 劇場 : お客さんが、笑うぞ！という気持ちで見に来ている。舞台全体を見渡した中での笑いが生じ、周りのお客さんが笑うと面白いと感じる。臨場感がある。
- ・ テレビ放送 : カメラワークが視聴者に笑いどころを提示してくれるためわかりやすい。リラックスした状態で見ることができる。

3. 考察

脚本の考察には実際の脚本を用い、映像の考察にはテレビ放送の動画を用いた。

◇脚本からの考察

- ・仮説Vの立証
[訪ねてきたすっちーをもてなすシーン]

しみけん (すっちーへ) まま、座ってお茶でも飲んでいき。小藪、お茶や。

小藪 おい、お茶や。
あきえ はい。・・・なんでや！あんたが言われたんでしょうが！
小藪 ポンポンときたから・・・。

小藪が、リズムだけであきえに指図するという、現実では起こりえないが、想像しやすい状況に違和感が生じ、笑いが生まれる。複数回の鑑賞でも、3人のテンポから笑いが誘われる上、清水が小藪へ指示した瞬間、あきえへの指図を期待すると推測できる。

・仮説Ⅲの立証

[すっちーが安井に結婚をすすめるシーン]

すっちー 君ももうええ歳やろ？
安井 はい、今年で30歳になります。
すっちー そろそろ結婚を考えてもええんちゃうか？
安井 まあ・・・それはそうかもしれませんが、僕はまだ仕事に全力を注ぎたいんです。大将から教わりたいこともたくさんありますし、それに恋愛に気を取られるってことはよくないかなと。まあでも、いずれは結婚したいんですけど、ただ僕、運命的な出会いに期待してしまうところがあるんです。仕事を頑張ってたら神様のご褒美をくれるんじゃないかって。まあでも、そんなこと考えてたら、結婚は無理かもしれませんけど・・・。ただ今は、仕事に一生懸命になりたいんです。
すっちー ああ、素晴らしいわ。なかなか言えん、こんなこと。
～(中略)～
小藪 すちさん、小藪君もぼちぼち結婚せなあかん歳やなあとか言ってもらっていいですか？
しみけん 無理やりやないか！言わしてもうたら。
すっちー しゃあないなあ。小藪君もそろそろ結婚せなあかんのちゃうか？
小藪 僕、今年で30歳になります。
しみけん 知らんて、もう。
小藪 それはそうなんでしょうけど・・・
しみけん なにがやおい！真似せんでええねん、いちいち。
小藪 僕まだ、仕事に全力を注ぎたいとそう思ってるんです。
しみけん うそつくなよ、お前は！

安井と小藪のわかりやすい対比から笑いが起こっていると考えました。また、清水のつつこみが安井の発言に対する小藪の対抗心や嘘を客に対して明確に示す役割を果たしています。複数回の鑑賞でも、小藪が嘘をつくことはわかっているからこそ、清水の的確なつつこみを期待し笑いが生じると推測できます。

[小藪と安井が出前から戻ってくるシーン]

すっちー 小藪君は？
しみけん 出前行ってるわ。

すっちー 昨日あんだけ怒られたから、今日は真面目にやろうっちゅうわけやな。
桑原 ちやいまんがな。安井君が出前に行ったから、その姿を見て、負けん気出してますねん。
あきえ そうなんよー。自分全然仕事せえへんのに、人一倍対抗心だけは強いよねえ。
しみけん にしてもあの2人、えらい遅いなあ。
小藪 ただいま。
しみけん おっそいやないか。なにしとつたんや、サボつとつたんやろ、どうせ！そこ置いとけ(おかもち)
安井 ただいま戻りました！
しみけん、あきえ、すっちー、桑原 あーおかえり！
小藪 全然態度ちやいますやん！僕よりあとに帰ってきたのに、怒ってくださいよ！なんでこんなウェルカムな雰囲気なんですか！

小藪と安井に対する扱いの違いが顕著に表れている。また、会話から、小藪の仕事に対する姿勢に呆れていることがわかり、2人を出迎える態度の違いに対する伏線になっている。複数回の鑑賞では、前述の伏線がより明確になり、面白くなる。

・仮説 I、IVの立証

[靖子王女と今別府王女の来日後のインタビューのシーン]

インタビューー 靖子王女、ご訪問された場所で一番印象に残っているのはどこですか？
靖子 それぞれの場所に忘れられない思い出があります。でも、一つだけ選ぶとしたら、大仏うどんです。何ととっても、大仏うどんです。私はあのうどん屋さんを訪れた思い出を一生懐かしむでしょう。
すっちー なあ安井君。いい思い出できた思ってな、元気出そう。
安井 はい、僕は今回、本当に勉強になりました。華やかに見える生活にも、つらい現実があるってこととか、諦めなければいけない恋があるってこととか。
あきえ すぐに素敵な恋愛ができるわよ。
しみけん そうそう、安井君やったら大丈夫。すぐに見つかるからな。ええ思い出として覚えとつたらええがな。
小藪 テレビつけてくださいー。なんで消したんですか？テレビをつけてくださいー。
しみけん うっさいわほんまに……。なん……。
小藪 リモコンを持っているあなた、早くつけてくださいー。
しみけん えらっそうやなあ！
あきえ つけてあげなさい。
しみけん めんどくさいわもう……。はい。
インタビューー ご訪問された場所で、一番印象に残っているのはどこですか？
今別府 特にないです。
しみけん ないんかい！もう！最後までこいつら！
小藪 今回のことで、本当に僕、いろいろ勉強になりました。一見華やかに見える生活にも、厳しい現実があることとか。諦めなければならぬ恋があることとか。～(中略)～誰も聞いてない！！

最終的に今別府王女が小藪を裏切るという意外性からおかしみが生まれると考える。また、小藪の発言中に誰もいなくなり、最後まで安井との違いを明らかにしていることも、一貫性が感じられる。これは、公演時間が長いことで、統一感を出すことができる。今別府という、王女に見えない役者が演じることによって、彼のキャラクターを活かしつつも、王女ならではの振る舞いができるためと推測できる。

◇映像からの考察

・仮説Ⅰの立証

[小藪が観光客の写真を撮るシーン]

お客さんに写真をとってくれと頼まれたとき、普通ならばお客さんを写すが、突然奇妙なポーズをとったことに対する意外性からの笑い。

[小藪が観光客の写真を撮るシーン]

安井と小藪に対し、しみけんらの扱いが違うことに小藪が腹をたて、ただ背中をはたくという幼稚な行為を行うという意外性からの笑い。

また、はたいた小藪が自分の背中を押さえて、痛そうな顔をするというボケにも繋がる。

・仮説Ⅱの立証

[すっちーが新しい育毛ブラシを使うシーン]

髪が少ないすっちーが育毛ブラシを地肌に強く叩きつけるという、何かが起きるとだれもが期待し、裏切られたり予想どおりだったり、観客によって2パターンの笑いが生まれる。

[小藪が仕事をサボるシーン]

小藪が安井に仕事を押し付けた挙句、大将であるしみけんの悪口を言っていると、後ろにしみけんが現れる。小藪が悪口を言う段階で、しみけんが現れるだろうという予想と、現れた後の小藪のオーバーリアクションへの期待から生まれる笑い。

・仮説Ⅲの立証

[今別府が登場するシーン]

今別府が王女とは思えないほど気持ち悪い姿で登場することによる、単純な笑い。また、しみけん等がつっこむことにより、女性役なのにスポーツ刈りで行動が奇怪だったり、口紅を塗りすぎていたり、服が変だったり、ちくわを指にはめていたり、おかしな点に気づかされる。

[特殊部隊とスパイの乱闘シーン]

今別府王女を狙うスパイと、彼女を守る特殊部隊隊長が全員老人であり、かっこいいはずの乱闘シーンがじゃれてるようにしか見えないという見ただけで笑いがこみ上げるような光景。

・仮説Ⅳの立証

[テレビニュースのシーン]

初めて出てきたニュースキャスター(いつもどおりの島田一の介)が話を振った評論家が、髪の毛をはやし

たニュースキャスターと同じ顔だった。→意外性による笑い

ニュースキャスターが話を振ったもう一方の評論家が、女装をした ニュースキャスターだった。→期待による笑い

見ている人のほとんどが島田一の介＝ハゲキャラだと理解しているが、その島田が髪を生やしていることと、中途半端な女装をしている。→見た目のおかしさ

4. インタビューについて

仮説や考察をより確かなものにし、新たな考え方や見方を得るために、私たちは脚本・演出を手掛けた、大崎知仁さんにインタビューを行った。

◇インタビューまでの道のり

よしもと新喜劇が毎日公演され、笑いの聖地と呼ばれる『なんばグラウンド花月』に出向いた。

受付のお姉さんから、劇場副支配人である上田泰三さんを紹介していただき、ことの経緯を話した。

後日上田さんから、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの新喜劇制作の中村進さんを紹介していただいた。そして今回、中村さんと大崎さんとのインタビューが成立したのである。

◇インタビューの内容

大崎さんとのインタビューを、Q&A方式で紹介する。

Q なぜテレビで省略できるのか？

A カットは制作会社の一任で、暗転も配慮しつつ脚本を書くから。

Q お客様の世代を意識して脚本を書くのか？

A 難しい言葉は使わないように打ち合わせをする。

また、時代の流れによって、女性へのセクハラまがいなボケや、不特定多数を感じさせるいじりなどカゲキなネタを入れにくくなった。

Q 東京と大阪でウケ方の違いは？

A 違いはあまりなく、関東の人は大阪弁の受け入れ態勢が整っている。

大阪の新喜劇をそのまま東京のルミネ the よしもとに持って行くこともありますが、普段やっている東京オリジナルの新喜劇はストーリー重視の演劇に近い。

5. 結論

よしもと新喜劇の「何度見ても面白い」理由は、いくつかのものに例えることができることがわかった。

I お弁当

味に飽きないごはんは、定番のギャグや、一度見たら忘れられない個性の強い演者のキャラクターで、様々な種類があるおかずは、同じ期待でも、裏切られたり期待通りになったりすることを意味する。

2つが合わさるからこそ、何度食べてもおいしいお弁当が作られることに、何度見ても面白い新喜劇に通ずるものがあると考えた。

II 戦隊モノ

ウルトラマンが敵と戦い、必ず勝利するというお決まりのパターンを、子供も大人も好んで何度も見るように、新喜劇も何度も楽しまれている。これは、日本人の「お約束」を楽しもうとする性分、前提を理解しているという安心感かつ、期待が裏切られるかもしれないというドキドキ感の上で成り立つと考えた。

また、劇場とテレビ放送の違いからも、結論を出した。

劇場とテレビ放送では、劇場の方が明らかに面白いと感じる環境作りが整っている。しかしこれは、お客さんは自らお金を払って劇場に足を運ぶため、お客さん自身の笑いに行く準備も整っていることになる。しかし、仮説は全てテレビ放送からの観点で、毎週同じようなストーリーや、劇場独特の「笑う雰囲気」はない状態での鑑賞にも関わらず、長く放送されているということは、やはり何度見ても笑うことができるからで、その理由は上でたてた仮説からだと考えた。

つまり、一見お決まりのパターンがあって、脚本作りが簡単そうに見えるが、そうではなく、世代の意識や起承転結の意識、初見のお客さんの期待に沿うように、でもマンネリ化は避ける、など色々なことを考えている新喜劇は奥深く、何度見ても面白いことに繋がると考えることができた。

6. 参考文献

『「お笑い」を学問する』 井山弘幸 2003/2

『大阪の笑い』 井上宏 2001/1

『王女しまっせ』 原本 大崎知仁

浅香あき恵のチョコベリグ日記

<http://asakaakie.laff.jp/>

7. 謝辞

この研究を進めるにあたって、無理なお願いにも快く引き受けてくださった、よしもとクリエイティブ・エージェンシーの上田さん、中村さん。お忙しい中インタビューを受けてくださった、大崎さんにこの場を借りてお礼申し上げます。

日本語の一人称・二人称について

柏木史菜 福山拓海 福山博元 田中正規 柳瀬雄司

1. 緒言

英語では、自分を表す一人称が「I」だけであるのに対して、日本語には「私」「わっち」「わて」...など多様な表現がみられ、また日本語では一人称二人称のどちらでも使用可能な「自分」や「おのれ」という独特の言葉があることにも興味を持ち、文献やインターネットなど用いて調べた。さらに、日本語の多様な敬語表現の発生の過程を推測しようと試みた。

2. 方法

- ・一人称二人称について書かれた文献から、日本語の一人称二人称を表す言葉の語源、及び変化の過程を調べた。
- ・江戸、明治それぞれの一人称二人称に焦点を当て比較。
- ・英語では、なぜ日本語のように一人称に変化がないのかを文献やインターネットを用いて調べた。

3. 結果

<江戸時代前期の一人称>

- ・「おれ」 男女貴賤の区別なく用いられる。⇒現在とは異なる
- ・「わたくし」 主に女性が使用。
男性の場合改まった場面での使用。

→「わたし」の出現

- ・「わし」 主に女性が使用。⇒現在とは異なる
- ・「こち」 →「こちと」に変化。単複両用化。

<江戸時代後期の一人称>

- ・「おれ」 男性中心、やや衰退
- 「わたくし」「わたし」 “おれ”にかわって広く使用

- ・わたい (親しい人との会話で)
- ・わちき (女性だけが使用) ←武家では使用されない
- ・わっち (主に女性、男性もやや使用)
- ・おいら・おら (男性が使用。既婚者または親しい者の間での使用。)

<明治時代の一人称>

- おれ」 男性が使用。
同輩及び目下のものに対して。
- ・「ぼく」 もともと”下僕”の意味の名詞
→初期はへりくだりを表現。
- ・「わたくし」 主に女性が使用。
男性は改まった場面で。

4. 考察

日本語の人称にどうして身分などの意味が含まれたのかは
はっきりと分からなかったが、
ある人称代名詞が、時代を経て敬意を表す意味を失ったとき
その尊敬表現などを補うように派生語が生まれたり
新しい語が生まれたりする現象が多くみられた

また、英語の人称が尊敬の意味を含まないのは、漠然とした「えらい」という概念でなく、その人が
具体的にどのような立場や職業なのかということを重要視しているためではないか。

例えば、「professor ○○」や「doctor○○」、「sir」などである
この例は三人称だが、二人称や一人称を使うときにも同様の
思考がはたらいているのだらうと考えた

5. 結論

言語はその地域、文化の人々による生活の長い営みの過程で発達、変化する。ただ今回の
研究で、その言葉の転換期には、敬語が普及し多くの人に用いられるようになったことが
あげられる。現在われわれが使用している言葉は長い時間をかけて変化、発達してきたも
のであり、今後も変動を続けると考えられる。

6. 参考文献

◆インターネットからの例

- ・フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%BA%E7%A7%B0>

◆本からの例

- ・「品詞別日本文法講座一名詞・代名詞一」鈴木 一彦 1973 年
- ・「教養としての言語学」鈴木 孝夫 1996 年
- ・「一人称・二人称と対話」三輪 正 2005 年

- 「日本語と日本語論」 池上 嘉彦 2007 年
- 「日本語の深層」 熊倉 千之 2011 年

人々の思考と妖怪

市田夢佳 山元菜摘

1. 緒言

古典文学に登場する、いわゆる“物の怪”と呼ばれる存在に興味を持ったことが、研究の発端である。人々の想像から生まれた非日常的な存在の研究から、人々の思想を探った。この研究では、あえて定義はあいまいにし、非日常的で人々の信仰の対象にはならない存在を“妖怪”としている。

研究の前半では妖怪の発生過程を4パターンに分類し、後半では、のちに発見したその分類に当てはまらないものの中から、具体例として狐を取り上げて詳しく調べ、考察した。

2. 方法

まず疑問に思ったことから仮説を立て、その仮説が正しいかどうか確かめるために情報を集めた。情報収集の方法は主に図書館の文献による調査である。研究テーマに関連する展示会にも足を運んだ。また「狐」の研究では、初めに「狐」に関する情報を集め、その情報から「狐」が非日常的な存在として扱われるようになった理由を推測した。

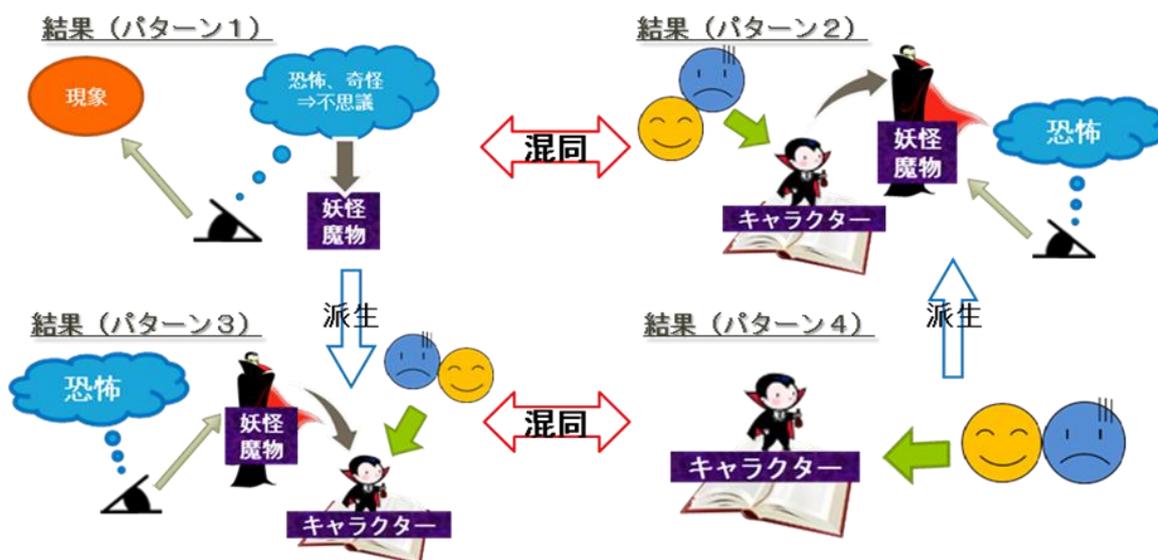
3. 結果（妖怪の発生過程について）

前半の研究について、小説や映画などから、日本には設定があいまいで、同じ名前でも地域によってさまざまな特徴があるものが多く、ヨーロッパには退治の方法が明確で、細かく背景設定が決まったものが多いというイメージを受けていたので、次のような仮説を立てた。

「日本では合理的な説明をすることができない現象があったときに、その現象を説明しようとしたことから妖怪が作り出され、ヨーロッパでは物語を面白くするためのキャラクターとして妖怪が作り出された」

これに対して結果は、私たちが調べた限りでは、妖怪全体の雰囲気の違いは感じられるものの、作り出された過程という面では大きな違いがあるという訳ではなく、日本でもヨーロッパでも様々なものだった。

4. 考察（妖怪の発生過程について）



その過程を大きく4つに分けると前頁の図のようになる。左上、パターン1は日本についての仮説と同じく、現象の説明として作り出され、恐怖の対象となる妖怪である。例えば気付かないうちに切り傷ができていた、というときに「かまいたち」という妖怪が通ったと表現する。右下、パターン4はヨーロッパについての仮説と同じく、キャラクターとして作り出された妖怪である。この例としてはゲゲの鬼太郎が挙げられる。そして右上、左下はそれぞれ、もともと現象の説明だった妖怪がキャラクターとして、キャラクターだった妖怪が恐怖の対象として変化したものである。右上、パターン2にはトイレの花子さんが、左下パターン3には、河童が当てはまる。作り出されてから時間が経って4つのパターンは混同されるようになった。

さて、このように分類したのだが、さらに研究を進めていくと、どれにも当てはまらないような妖怪が出てきたので、そのいくつかを紹介する。

一つ目は子どもの教育のための妖怪である。理解させるのが難しいときに妖怪を使って、やってはいけないことを教えるのである。二つ目はただの見間違いだった、というものである。そして他にも様々な過程をたどって生まれた妖怪が存在するのだが、今回は、動物が化けてなる妖怪に注目し、その一例として「狐」について調べた。「狐」が妖怪として扱われる要因は、その生態や人間との関係にあるのではないかと考え、「狐」について調べることで人々の思考と妖怪の結びつきを探ろうと思ったからである。

「狐」が妖怪として扱われることがあるということについて、その理由を考察した。「狐」が妖怪として扱われる要因は、その生態と人間との関係にあるのではないかと考え、そこに重点を置いて調べた。

5. 結果（「狐」について）

ここからは、「狐」についての研究である。はじめに述べておきたいのは、「狐」は人里近くに巣を作るうえに、人間の近くまで寄ってくることもあるほど好奇心が強いので、古くから比較的身近な動物であり、その生態が目撃される機会も頻繁にあったということだ。したがって「狐」にまつわる様々な伝承は、それがどんなに突拍子もない物語に思えても、その根底にはかつての人々が実際に見た「狐」の姿が投影されているはずだ。この考えに立って考察を進める。

まず、日本人の「非日常的な存在としての狐」の捉え方には善悪の二面性がある。一つは害をなす妖怪、もう一つは稲荷神社を代表とする信仰の対象という面である。一つの動物に善悪の二面性が見出された背景にはどのような要因があるのかということを考える上で、まずは「狐」の特徴を確認する。

日本に多く生息するホンDIGツネを参考にして、その特徴を挙げた。「狐」はいわゆる「キツネ目」が特徴的な、知的な顔つきをしている。顔つきだけでなく実際に頭もよく、好奇心が強い動物である。体毛は鮮やかな黄色で、ふさふさとした尻尾が目立つ。また他の動物と比べると、どこことなく女性的で気品が感じられるような外見をしている。このような特徴を踏まえたうえで「非日常的な存在としての狐」について具体的に考えた。

日本人の「狐」の捉え方には二面性があると説明したが、そのうち妖怪としての「狐」は、何かに化けて人を騙すという話が有名で、現在まで伝わる伝承の多くも狐が化ける話である。それらの話は、「狐」の知的な容貌と、その行動に由来している。例えば「狐」は倒れたふりをして、近づいてきた獲物を襲うことがある。「狐」にずる賢いイメージがついたのは、外見だけでなく実際にこういった行動をするからだろう。また、藻をかぶって水中に隠れ、鳥を捕まえたりもするので、「狐」が葉っぱなどを頭にのせて化ける話が生まれたと考えられる。

ここまで妖怪としての「狐」を説明した。次はもう一つの面、信仰の対象としての「狐」についてである。

このことを考えるにあたって、触れておかなければならないのは陰陽五行説という思想である。陰陽五行の思想とは、「世の中のあらゆる事象を、五つの要素と陰陽の組み合わせで分類することで説明しようとする考え」のことである。この考えは、5世紀から6世紀、聖徳太子が活躍した時代と同じころに中国から持ち込ま

れ、律令国家が形成されていく中で日本の文化に深く根差していった。五行の考え方では、木・火・土・金・水の要素にそれぞれ対応する色があり、土は黄色で表される。よって鮮やかな黄色の体毛を持つ「狐」は土の力が強いとされた。そして土は農業の要であるため、「狐」は穀物神、あるいはその使いとして信仰の対象になり得たのだろう。気品のある外見や、豊かに実った稲を思い起こさせる尻尾などもあって、五行の思想を理解していなかった人々も、「狐」が祀られることに対する違和感はほとんどなかったと思われる。

4. 考察（狐について）

これまでの「狐」に関する研究をまとめると、「狐」が「非日常的な存在」として扱われるようになったのは、まだ身近にきつねが生息していたころの日本人が捉えた、「狐」というものの像や、農耕民族としての生活に、中国から持ち込まれた思想がうまく重なったことが要因である。他にも、日本人が多文化の思想を受け入れる柔軟性を持っていたことや、動物を神として祀ることに抵抗がなかったことなど、何か一つでも状況が違っていたなら、今日までその扱いが続くことはなかっただろう。

5. 結論

今回の研究は、非日常的な存在について調べることで人々の思考を探るとというのが目的だった。一言で妖怪と言っても、怪談話などが思い浮かんで、取るに足らないもののように思われてしまうかもしれないが、科学が発達して行く過程で、違う形になったとしても、失われることなく存在している事を考えると、その根底には今も昔も絶えず流れる何かがあるのだと思う。そしてそれはおそらく、人々の願いであったり、恐怖であったり、好奇心であったりと、時代やそのときどきの状況によって様々に変化する人々の思考を投影したものであり、取るに足らないどころか、精神文化の一端を担っているものだと思うのである。

6. 参考文献

- 『図解雑学 日本の妖怪』2009年 ナツメ社 小松和彦
- 『妖怪学新考』2000年 洋泉社 小松和彦
- 『御伽草子集』1974年 小学館 大島建彦
- 『妖怪の本』1999年 学習研究社 Books esoterica
- 『狐』1980年 法政大学出版局 吉野裕子
- 『狐の日本史 古代・中世編』2001年 日本エディタースクール出版部 中村禎里
- 『狐の日本史 近世・近代編』2003年 日本エディタースクール出版部 中村禎里

7. 謝辞

お忙しい中、私たちの発表に来てくださった大学の先生方や、興味を持って聞いてくださった一般のお客様方に、この場を借りて感謝申し上げます。聞いてくださる方がいるということは本当に幸せなことだと実感いたしました。また、中間発表で多くの方から頂いたご助言は、自分たちにはなかった鋭い視点からのものでどれも大変参考になり、最終発表へのさらなる弾みになりました。皆様、本当にありがとうございました。

日本語における誤用の発生とその定着経緯

二口陽香

1. 緒言

普段の何気ない日常会話の中にも、改めて考えてみると、文法的に誤っている日本語は多く存在する。そういった言葉は、どのようにして使われ始め、多くの人へと広まるのか。私は、現代の日本語における誤用について興味を持った。そこで、以下の2点を目標に、今回の課題研究を進めていくことにした。

- ①誤用が発生する主な理由を調べ、その定着経緯を調べること
- ②発生理由、定着経緯の考察から、今後新たに定着しそうな誤用を考えること

2. 方法

1. 誤用および定着の定義を考える
2. 普段使っている日本語における、誤用と思われる例をとりあげる
また、どのような点が誤っているのかを推測する
3. とりあげた言葉が、どのように誤っているのか検証をする
4. 誤用が発生した理由を調べる
5. とりあげた言葉が現在定着しているかを考える
6. 定着経緯を考える
7. 1~6の考察より、今後新たに定着しそうな誤用がないかを考える

3. 結果と考察

1. 研究開始当初、私は、誤用の定義を「文法的に誤っているもの」としていた。そうすると、発生から定着までの定義づけなどが難しく悩んでいたところ、今回の課題研究を進めるに当たりご協力をいただいている大阪大学の先生から、「誤用の定義を考えなおしてみても」とのご助言をいただき、誤用の定義を考え直すことにした。定着度を具体的な数値などで表したほうがわかりやすいと考えたので、文献等を参考に、誤用を以下のように定義した。

- ・誤っていると思われる言語現象の使用率が25パーセント程度・・・誤用
50パーセント程度・・・ゆれ
75パーセント程度・・・慣用

どれだけ多くの人が使っていても、誤りは誤りだという意見もあるが、今回の課題研究では、誤用の定着とは、一般的に使われる慣用のレベルになることと定義した。当初は、定着具合を校内アンケート等で調べる予定にしていたが、時間の都合上行うことができなかったので、定着具合は、文化庁が行っている『国語に関する世論調査』をもとに検証した。

また、誤っている表現を使っている人がごく少数である時代から、約25パーセントにまで拡大する時代も、今回は誤用のレベルであると設定した。

2. 「とんでもない」の敬語表現として使われている、「とんでもありません」「とんでもございません」に注目した。「とんでもない」は一語の形容詞であるので、言葉の一部を変化させて使うような用法はないの

ではないかと考えた。

一語では、誤用の発生および定着の経緯を一般的にすることが難しいと考え、他の例にも取り組みたかったが、結果的にこの一語だけになってしまった。

3. 「とんでもない」とは、もともと関東で使われていたあずま言葉、「途でもない」が変化してできた言葉である。「途でもない」とは途方もないという意味で、並々でない、途方に暮れるといった意味である。その「途」に、手段や物事の道理といった意味が加えられて使われるようになり、「途でもない」は道理から外れてひどい、思ってもみないといった意味で使われるようになった。これが現在の「とんでもない」の意味である。

現在日本語において、「とんでもない」は一語の形容詞である。一語の形容詞である以上、「情けない」や「つまらない」を「情けありません」や「つまらごさいません」敬語表現にしないのと同様に、言葉の一部だけを変化させて敬語にするよう法はないはずである。以上で、方法2で行った、誤っている点の推測は正しいことがわかった。

では、正しい表現にするにはどうすればよいのか。「とんでもない」は「とんでもないことです」「とんでもないことごさいます」のように、名詞「こと」を挿入して、「とんでもない」という形容詞の後ろに敬語表現をつけるのが適切とされている。

4. 「とんでもない」を、「とんでも」と打消しの「ない」という二つの部分にわけてとらえた人たちが、「ない」の部分で、「ありません」や「ごさいません」といった敬語表現にして使い始めたのではないかと推測される。

考察3で述べたように、「途」に手段や道理といった意味が加えられたため、途がない、すなわち手段がない、道理から外れているといった意味で、「途」を「ない」が否定している、二つの言葉がつながってできた言葉であると人々が受け取ったのが原因ではないかと考えられる。

5. 文化庁が平成15年度に行った国語に関する世論調査では、「とんでもごさいません」という表現が気になるかという問いに対して、気になると答えた人が調査対象者の約18パーセント、一方で、気にならないまたはどちらとも言えないと答えた人が約80パーセントであった。この数80パーセントという数字は、今回設定した「言語現象の使用率が75パーセントで慣用」という定義に当てはまっている。また、社会人の中でも、褒められたり評価されたりしたことに対して、「とんでもごさいません」などと言って返すのはよくある光景である。文化庁が発表した『敬語の指針』には、そのように使われることは問題ないと明記されている。

このことから、世間では、「とんでもごさいません」という表現は抵抗なく受け入れられており定着しているものと考えた。

6. 「とんでもない」の「ない」の部分で敬語表現に変えても、思ってもみないなどといった意味は通じるため、形容詞であるにもかかわらず、言葉の一部のみを変化させて使うことに違和感を覚える人が少なかったのではないかと考えられる。

また、正しい敬語表現である「とんでもないことです」「とんでもないことごさいます」といった表現が多少大げさに聞こえることも、正しい表現があまり使われない原因の一つではないかと考えられる。

正しい表現の使用率が減少するにつれ、たとえ正しい表現を知っていたとしても使いづらい雰囲気になり、結果、誤っている表現ばかりが聞こえてくるようになるのではないかと考えた。

7. 今回は、目標であった、新たに定着しそうな誤用を考えるとところまではたどり着けなかった。現段階で、誤用の定着例としてとりあげたのが、「とんでもない」の敬語表現の一つだけで、誤用の発生とその定着経緯を一般的に説明するには情報が少ないので、他の例も探して考察する必要があると考える。「～せざるを得ない」の誤用を調べてみてはどうかという助言をいただいたので、そちらにも取り組んでみたい。

また、今回は定着の度合いを、文化庁の行っている世論調査のデータに基づいて検証したが、古いデータを使用することになってしまったので、最新の情報が手に入り、身近なところでの定着具合がわかるアンケートの実施を行って、信憑性を高める必要があると考える。

4. 結論

誤用が発生する理由としては、対象となる語の語源や意味などから、一語であるにもかかわらず品詞分解ができるように見えると、言葉の一部のみを変化させて使われるということがある。誤っている表現でも意味がわかり、正しい表現が長かったり大げさであったりすると、誤っている表現でも多くの人が用いだして定着すると考えられる。また、定着することで正式な場面などでも使うことに抵抗がなくなり、やがて正しい表現はあまり使われなくなる。

なお、今回は、誤用の発生および定着例を一語しかとりあげることができなかつたので、新たに定着しそうな誤用を考えるには至らなかつた。「～せざるをおえない」や「お求めやすい」(正しくは「～せざるを得ない」「お求めになりやすい」)といった、近頃耳にする誤用について検証して、他の誤用発生理由や定着経緯がないかどうかを調べてみる必要がある。

5. 参考文献

- 井上史雄 日本語ウォッチング 1998 岩波書店
井上史雄 敬語はこわくない 1999 講談社現代新書
北原保雄 問題な日本語 2004 大修館書店
北原緑郎・飯田晴巳 他 みんなの日本語辞典 2009 明治書院
新野直也 現代日本語における進行中の変化 2011 ひつじ書房

文化庁 平成15年度「国語に関する世論調査」の結果について

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/yoronchousa/h15/kekka.html

文化庁 敬語の指針 第3 具体的な場面での敬語の使い方

http://www.bunka.go.jp/bunkashingikai/soukai/pdf/keigo_tousin.pdf

6. 謝辞

今回の課題研究を進めるに当たり多大なるご協力をいただきました、大阪大学の岩井康雄先生、本当にありがとうございました。また、岩井先生とともに多くのご助言をくださった大阪大学日本語日本文化教育センターの先生方に、この場を借りてお礼申し上げます。

大阪の「坂」

杉本亮

1. 緒言

このサイエンス探究という授業を始めるにあたり、大阪の地名についての研究をしたいと担当の教諭に伝えたところ、若一光司氏の『大阪 地名の由来を歩く』という書籍を貸して頂き、その本に大阪の由来が2つ書かれていた。どちらも大阪という地名は坂という地理的条件に由来するという点で一致しており、由来となった坂はどこに存在するのかという疑問を持った。これが私がこの研究を始めるきっかけとなった。

2. 方法

I 大阪の由来となった坂の推定

若一光司氏の書籍には大阪という地名の由来として次の二つが挙げられていた。

i 「上町台地の西側斜面にできた坂を意味している」

ii 「淀川べりの渡辺津が昔、『大江の津』と称され、そこから上町台地にかけての坂が『大江の坂』と呼ばれていたことに由来する」

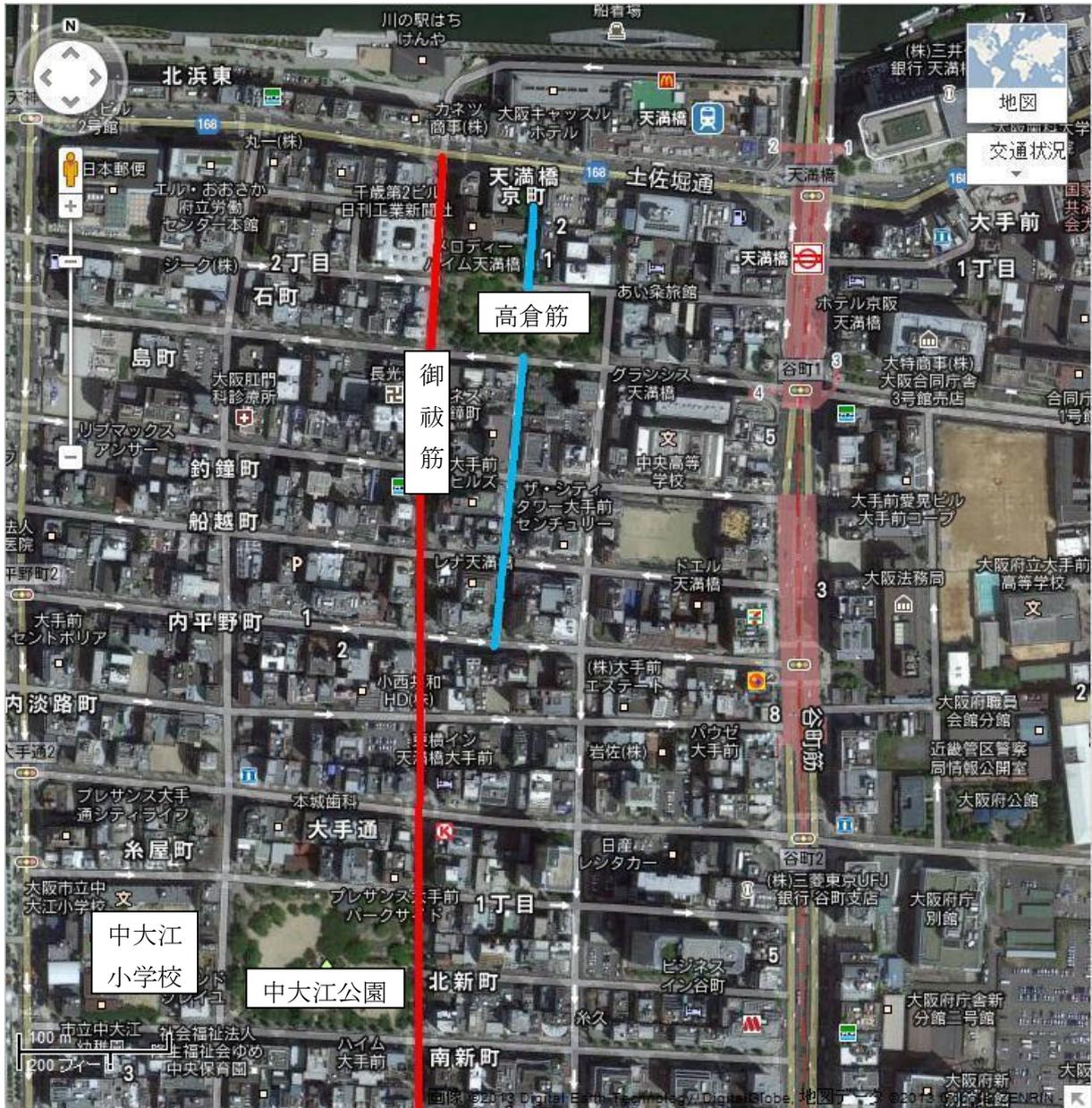
また、「大」は坂を引き立てるための美称に過ぎず、大阪に大きな坂という意味は含まれないと考えるのが妥当述べられていた。これより i は天王寺七坂を含む天王寺区周辺の諸坂を指すと考えた。そして ii はインターネットでの調査や、古地図の検証から大阪府中央区石町・島町周辺の諸坂を指すと考えた。

II 実地調査

i が指すと考える天王寺七坂周辺と、ii が指すと考える大阪府中央区石町・島町周辺に実地調査に出向いた。この実地調査は i ii に書かれている地理的条件を満たす坂が実際に存在するのかを確かめることを目的に行った。

3. 結果

天王寺七坂周辺には i の条件を満たす坂が多数存在していた。大阪府中央区石町・島町周辺には渡辺津の推定地である八軒家浜船着場から上町台地へ上る坂が存在していた。またその坂の先には中大江公園や中大江小学校といった、大江という地名が使われている施設があった。ただし大阪府内に大江という地名の付く行政区画はなかった。石町・島町周辺の坂の中では古く御祓筋と高倉筋と呼ばれた2つの筋にある坂が特に勾配が大きく距離が長かった。



4. 考察

御祓筋、高倉筋の坂は上町台地北端、つまり大阪という地名の本来の地に位置していることからこれらの坂が大阪という地名の由来となったと考える。天王寺七坂周辺の坂は大阪本来の地からは離れているため、大阪の由来となった坂ではないと考える。

5. 結論

上記の理由から、大阪という地名は御祓筋、高倉筋あたりの坂から起こったものであるという考えにいたった。

6. 参考文献

ウェブページ・上町台地の坂道 御祓い筋北端の坂

http://iyasinohigaeritabi.web.fc2.com/saka/1_oharai_saka.htm

書籍・若一光司 大阪 地名の由来を歩く KK ベストセラーズ

7. 謝辞

書籍・地図などの研究に必要な資料を長い間貸してくださり、さまざまな助言もくださった大手前高校サイエンス探究担当教諭、その他の教諭の方々に感謝申し上げます。



御祓筋の坂

理想のヒーロー・ヒロイン

上田由梨 笹田美有

1. 緒言

私たちが昔のマンガを読んでいると、現代のマンガと比べ、あまり魅力的でないと感じるものがしばしばあった。しかしその作品は発売当時から一千万部以上を売り上げ、アニメ化もされているため、決してつまらない作品という訳ではないようであった。

そこで私たちは1970年代から2000年代に流行したマンガを取り上げ、作品の魅力が時代によって異なる原因を時代背景から調べた。

2. 方法

舞台が同じで10代の少女を対象にしたマンガを探し、参考にしたのは以下の4作品である。(これらのマンガはすべて1000万部以上を売り上げ、アニメ化もされているので知名度は十分であるとします。)

1970年代…キャンディキャンディ(講談社)

1980年代…ときめきトゥナイト(集英社)

1990年代…花より男子(集英社)

2000年代…君に届け(集英社)

4世代のマンガを読み、ヒーロー・ヒロインの性格を書き出し、比較した。

そして変化が著しかった時代の女性の大学進学率や国会議員数のような社会背景を調べ、変化の理由を調べた。

3. 結果

マンガを読み、調べた結果、各マンガのヒーローとヒロインの性格・特徴は次のようになった。

ヒーロー	テリィ (キャンディキャンディ)	風早翔太 (君に届け)
性格	<ul style="list-style-type: none">・男らしく強引・社会に縛られない・素直になれない	<ul style="list-style-type: none">・優しく気遣いができる・社会のルールを守る・素直

ヒロイン	キャンディ (キャンディキャンディ)	黒沼爽子 (君に届け)
性格	<ul style="list-style-type: none">・おてんば・自分の意見をはっきり言える・男性と対等に渡り合う	<ul style="list-style-type: none">・おしとやか・不言実行・男性を立てる

ヒーロー	真壁俊（ときめきトゥナイト）	道明寺司（花より男子）
性格・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・人間界に暮らすが、本当は魔界の王子 ・「女に興味はない」と蘭世を冷たくあしらう 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界的に有名な「道明寺財閥」の御曹司 ・普段は偉そうだがつくしには優しく穏やかな面を見せる

ヒロイン	江藤蘭世（ときめきトゥナイト）	牧野つくし（花より男子）
性格・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・吸血鬼と狼女を両親に持つ ・特殊能力を使って俊に積極的にアピール 	<ul style="list-style-type: none"> ・真っ直ぐな正義感と雑草根性 ・類と司のあいだで揺れるなど、恋愛に関しては消極的

また、以上の結果からヒーローの周りの人への優しさ、ヒロインの恋愛に対する積極性について



ヒーローの周りの人への優しさ

ヒロインの恋愛に対する積極性

4. 考察

マンガの主人公の変化が大きかったのは1980年から1990年の10年間であった。社会での女性の在り方も変わっていった。

また、主人公の性格の変化は当時の読者の女の子の憧れを反映していたように思われる。

ヒーロー:年代を追うごとに、より女性に優しくなった。

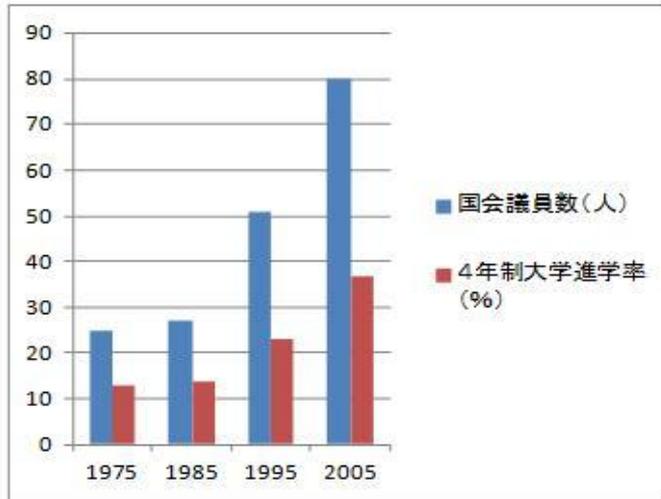
ヒロイン①:86年以前のヒロインは活発な性格であった。

ヒロイン②:流行するマンガのヒロインは年代を追っておしとやかになった。

5. 結論

社会での女性の在り方も変わっていった。

最も変化が大きかったのは80年代から90年代の間で、1986年に男女雇用機会均等法が施行されたことと関連している。



1986年男女雇用機会均等法施行

ヒーロー:年代を追うごとに、より女性に優しくなった。

←当時の男性はより女性と協力することを求められるようになっていた。

←読者の女の子はヒーローが持つ現実以上の優しさに惹かれた。

ヒロイン①:86年以前のヒロインは活発な性格であった。

←おとなしくするように教えられた当時の女の子は彼女らが自分で未来を切り開いていく姿に憧れた。

ヒロイン②:流行するマンガのヒロインは年代を追っておしとやかになった。

←86年以降の女性は社会進出に伴い活動的になったため、彼女らのかよわさに憧れるようになった。

←自分とは違う彼女らがする素敵な恋愛をマンガに求めている。

6. 参考文献

「キャンディキャンディ①～⑨」 いがらしゆみこ 講談社

「君に届け①～⑱」 椎名軽穂 集英社

「厚生労働省ホームページ」 <http://www.mhlw.go.jp/>

7. 謝辞

ご助言頂いた先生方。

漫画を提供して下さった皆様。

「なにげな」日本語

砂田 大成

1. 緒言

みなさんは「鳥肌が立つ」という言葉をどのような意味で用いるだろうか。「鳥肌が立つ」とは本来「ゾッとする」という意味の慣用句であるが、私たち、特に若者と呼ばれる世代では、「彼の演技に鳥肌が立った」をはじめとして、「感動する」の意味で用いられることが多いように感じる。このように現在、本来のものと異なる使われ方をされている語はたくさんある。私はこれらの発生時期とその過程に興味を持ち、調査を始めた。

2. 方法

調査を進めていくうえで、以下の手順を踏んだ。

① 該当する語句の収集

普段から気になっていた語を中心に辞書等を用いた。

Ex:確信犯・姑息・爆笑・気が置けない etc…

② 参考となる文献の収集

その中から「なにげに」という言葉に興味を抱いた。

3. 結果とそれにおける考察

・「なにげに」の意味

「なにげに」の調査を進めるにあたって、まずはじめに必要なことは「なにげに」の意味の確認である。そこで「なにげに」を辞書で引いてみることにした。

「なにげに」…「何気ない」の連用修飾の形として「なにげなく」と用いるところを、1980年代からから誤って使われ始めた。 (『広辞苑』より引用)

これより、「なにげに」は「何気ない」と基本的に同じ意味をもつと考えられる。次に「何気ない」を辞書で引いてみると、

「何気ない」…これといった特別の意図もない。さりげない。 (『広辞苑』より引用)

…相手にそれらしい様子を感じさせない。 (『新明解国語辞典』より引用)

ここから「なにげに」のおおよその意味が把握できる。

・「なにげに」の発生過程

「なにげに」の発生以前は、「なにげ」に否定の“ない”がついて「なにげない」の形で使用されてきた。一方で「なにげ」が単独で用いられることは当時なかった。そこで「なにげない」が「なにげ」+「ない」という語構成だということが意識されなくなり、否定表現が存在することの価値がなくなって「なにげに」が生まれた。つまり、否定の「ない」が何を否定しているのかがはっきりせず、それならば省略してしまっても何ら問題はないだろうということになったのである。

・「なにげに」の新しい意味の出現

前述の段階を経て用いられるようになった「なにげに」であるが、その後、今までの「なにげに」では解釈しきれない使用例が登場してきた。その代表例となるのが“彼はなにげに頭がいい”である。仮にこの

文章にもととの意味を当てはめてみると、“彼はさりげなく頭がいい”となり、これでは少し違和感が残ってしまう。この場合「(それらしい様子がないのでわかりにくい)実は、本当は。」(『現代日本語における進行中の変化の研究』より引用)といった意味を当てたほうがより自然で適切であると考えられる。また、この場合の「なにげに」には主に三つの特徴がある。一つ目の特徴は、意外性を示しているということである。この文の話者はおそらく、彼のことをそこまで頭がいいとは意識しておらず、実際は頭が良かったという事実に対して意外性を示していることが例文から推察できる。二つ目の特徴は、省略表現であるということである。この例文は、“彼は〇〇だけれど、実際のところ頭がいい”と、前に逆接の接続詞を伴って言い換えることも可能である。しかし、この表現はかなり回りくどく、また、現代ではこのような表現はあまり好まれない。そこで例文のように、意外性にあたる部分は省略され、事実だけを述べるような文章になっているのである。三つの特徴は、副詞的に用いられているということである。この場合の「なにげに」は用言を修飾する。これに関してはあとでも触れるが、私は、現在「なにげに」が「なにげない」の意味で用いられるケースが極めて少ないことなどから、「なにげに」を「なにげない」の誤用とみなすのではなく、独立した副詞として捉えるほうが妥当であるのではないかと考えている。

・「なにげに」の持つ曖昧さ

ここまでの考察で、「なにげに」には語の形における変化と、語の意味における変化の、2段階変化が起こっていることがわかる。これを受け、「なにげに」は実にさまざまな意味を持つことになった。そして、この意味の多さが曖昧さを生み出し、使用する人はそれを利用して、話し相手に意味づけを委ねるようになったのである。ここで私は、日本語特有の婉曲表現の多さから「なにげに」も婉曲表現の一つではないかと考えた。

ここでは二つの特徴をあげ、それぞれについて考察した。第一の特徴は、断定することを恐れるということである。原因は二つ考えられる。一つ目は、断定することで相手に敵意を与えるのではないかとという話者自身の不安である。これは、逆に相手からの攻撃を未然に防ぐという効果を兼ねている。二つ目は、否定された時に後がなくなることへの恐れである。これは、断定を避けることで否定された時の抜け道をあらかじめ確保しておくことにつながり、また、周りの意見と合わせようとする心理とも関係があると思われる。第二の特徴は、責任回避である。これは聞き手に意味の解釈を任せることができるというもので、こうすることで、問い詰められた時に困らないという利点を生み出す。

・「なにげに」の省略形

ここ最近、友人との日常会話の中で「なにげに」の省略形と思われる「なにげ」が出現しだした。「なにげ」の使用例として、“今日なにげ暑いよね”が挙げられる。この省略理由として、先程説明したように、「なにげに」の意味が多様化・複雑化したため「なにげに」の言葉としての価値が低くなったからと考えられる。

・これらから分かること

一旦ここまでの流れを確認しておく。第一に、「なにげない」は「なにげ」が単独では使用されていないという背景から形が「なにげに」へと変化した。第二に、「なにげに」は「さりげなく」から意外性を示した「実は・本当は」へと意味が変化した。そして第三に、「なにげに」は「なにげ」へと再び形を変化させた。ここで注目すべきことは、以前は用いられることのなかった「なにげ」が、ここ数十年の3段階変化を経て単独で用いられる語として存在しているということである。この結果を受け、私は「なにげに」のさら

なる変化について検証を続けた。

・「なにげ」は形容動詞になりうるか

私は「なにげに」の4段階目の変化として、「なにげ」が形容動詞になるという仮説を立て、『漢語の名詞と形容動詞語幹について』より、形容動詞における以下の三つの特徴を挙げ、それぞれの観点から考察し、その可能性を探ってみた。

- ① 格助詞がつかない
- ② 連体修飾形が「な」である
- ③連用修飾を受ける

一つ目の特徴は、格助詞がつかないことである。これに関し、確かに「なにげ」に格助詞「が」や「は」、「から」をつけてみると違和感はあるものの、それが直接、格助詞がつかないことを示すことにはならず、証明するのは困難であると考えた。二つ目の特徴は、連体修飾形が「な」であることである。使用例はインターネットなどの一部に限られているものの、「なにげな出来事」などの例が見られた。また、このときの「なにげな」は、主に「なにげない」と同じ意味で用いられているケースが多いことがわかった。三つ目の特徴は、連用修飾を受けることである。これについてであるが、「なにげな」はそもそも修飾されることが少なく、存在の確認が難しいと判断した。まとめておくと、形容動詞形が存在するとしても、連用形の「なにげに」の形以外の使用例がほとんど見られず、「なにげに」だけが特化して発達している状態にあると言える。つまり、「なにげ」の形容動詞化は失敗に終わったわけである。

・連体詞「なにげな」

こうして一旦は振り出しに戻った「なにげ」の変化予想であるが、調査を続ける中で、ある語との比較から新たな可能性を見出すことができた。その語とは「大きな」である。「大きな」を連体形の「な」の形だけが特化した形容動詞とする見方もあるのだが、ここでは連体詞として分類することにする。この「大きな」をはじめとする「～な」の形をもつ連体詞に見られる特徴として、今は「大きな」を例にとって説明するが、「大きい○○」とするところを「大きな○○」に入れ替えても同じことを表すことができるというものがある。これに注目して「なにげな」を見てみると、先ほど示したように、「なにげな」は使用例が少ないものの「なにげない」と同じ意味で用いられていることから、「大きな」同様、入れ替え可能な関係にあるということができる。また、「なにげな」を連体詞として見ることで、「なにげな」は独立した語となるということに加え、「なにげ」の形容動詞化が失敗に終わったことなどから、「なにげに」を副詞として処理できるという点においても合点がゆく。これから「なにげな」が発達するであろうプロセスとしては、「なにげない」のいくつもの変化によって「なにげない」そのものの使用頻度が減少し、改めて「なにげない」として用いる際に、より短い語で同じ意味を表すことができる「なにげな」が用いられるというものが考えられる。

5. 結論

まずここで述べたいのは、「なにげに」諸語についての誤用に関する私見である。現時点での私のこれらの語に対する評価として、まず「なにげに」に関しては、もちろん用いられ始めた当初は誤用であったであろうが、「実は・本当は」の意味が定着した今では、これが誤用であるとみなす必要はなく、むしろそういう意味を備えた副詞として扱い歓迎するほうが良いと考えている。一方で「なにげ」は、単なる「なにげに」の省略語であり、誤用とはいかないのだが、そこまでこの語自体に価値を置く必要性はないと認識している。考察の最後に触れた「なにげな」も、「なにげに」同様、これを誤用だとみなす必要はなく、派生するべ

くして派生した立派な連体詞だと認知するべきだと考えている。

調査の結論については、“結果とそれにおける考察”の項目の中で示してきたつもりなので、ここでは割愛しようと思う。

一年以上にわたるこの調査を通して、「なにげ」が、言葉の変遷という点において通過すべき点は全て通過してきた、ある意味での模範的な言葉であるということがわかった。またこのような語に出会うことができた運に感謝したいと思う。これをもって、「なにげ」に関する調査を一旦終えることになるのだが、これからも変化を中心に注目し続けたいと思う。

6. 参考文献

- ・ 漢語の名詞と形容動詞語幹について-意味概念と用法を中心として-
<http://kaja.or.kr/journal/Vol66.pdf>
- ・ 新野直哉.「現代日本語における進行中の変化の研究」.ひつじ書房.2011
- ・ 冷泉彰彦.『「関係の空気」「場の空気」』.講談社.2006
- ・ 水谷静夫.「曲り角の日本語」.岩波書店.2011
- ・ 村田菜穂子.「形容詞・形容動詞の語彙論的研究」.和泉書店.2005

7. 謝辞

垣内先生をはじめとする SSH 関係の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

若者言葉はなぜ批判されるのか

松山 哲士

1. 緒言

若者言葉とは、中学生から30歳前後の男女が仲間内で使用する言葉のことである。新聞やニュース番組で、若者言葉はしばしば批判的に扱われている。しかし、私や私の周囲の人たちは、不自由なく若者言葉を使っており、周囲に悪影響を及ぼしている実感がないため、なぜ批判されるのか疑問に思った。そこで、若者言葉が果たす役割や、若者言葉発生の背景、そして、言葉の規範について、文献を用いて明らかにしながら、批判される原因を探ってみようと思った。

2. 方法

- ①「若者言葉は、周りから聞くと意味がわからないから批判されるのではないか」という仮説を立て、文献から若者言葉の機能を拾い上げ、私が実際に使っている若者言葉を当てはめ、整理した。
- ②若者言葉発生の背景について文献を用いて調査し、使用者の心理的状況と社会的状況に分けて整理した。
- ③①・②での調査から、「規範からの自由」という記述に目を付け、これが若者言葉批判の一番の原因ではないかと考え、ことばにおける規範について、文献を用いて調査し、考察してみた。

3. 結果

- ①若者言葉は以下の7つの機能に分けることができる。

・ 娯楽機能

新しい言葉を作り、作った言葉を実際を使って笑いを生じさせる機能。話し手の娯楽を表す。

例) ノー勉 (まったく勉強をしていないこと)

神ってる ((あいての動作などが) 素晴らしいこと) 等

・ 会話促進機能

若者言葉を使って会話を盛り上げたり、略語を使って会話のテンポを良くしたりする機能。娯楽機能は話し手の娯楽を表すのに対し、こちらは会話に関わっている全員の娯楽性を表す。したがって、あてはまる言葉は娯楽機能と同じである。

・ 連帯機能

くだけた言葉を仲間内で使うことによって親近感を持たせ、仲間意識を強める機能。同時に、この言葉が通じない人を排除する機能も働いている。

例) ガチで (強意表現の1つ)

ヤバい (危険が迫っている様子。又は、素晴らしい様子)

- ・イメージ伝達機能

視覚的あるいは聴覚的なことばや表現を用いて、瞬間的に物事のイメージや話し手の気持ちを伝える機能。

例) ガーン (落ち込んでいる様子)

ショボン (寂しい様子)

- ・隠蔽機能

既存の言葉を言い換えたり、元とは異なる意味を付け加えたりすることで、周囲の人に聞かれては都合の悪いことを隠す機能。

例) キックイムシ (いびきがうるさい人)

- ・緩衝機能

相手の感情を害したり傷つけたりするのを避けるために、相手への印象を和らげる機能。同時に、自分が傷つくことも避けている。

例) 行く系?行かない系? (不必要な接辞)

アバウトな奴 (いい加減な人)

- ・浄化機能

その言葉を口にすることで不快な感情を発散させ浄化する機能。仲間内での陰口で特に使われる。

例) うざい (うっとうしい)

イタい (見てられないほどひどい)

②若者言葉発生の背景は以下のとおりである。

- ・心理的背景

若者言葉を使っている世代、つまり、中学生から30歳前後の人々は青年期に属していることから、青年期の特徴について文献を参考にしてまとめた。青年期は、第二の自我が目覚め、自分と他人とを比較するようになる。よって、人の見た目や様子に関する言葉が多く発生したと考えられる。また、青年期は自己主張が強くなり、拘束を嫌う傾向がみられる。よって、既成の言葉の規範を破るようになると考えられる。さらに、傷つきやすい自分を守りながら他人との共生を志向する「やさしさ志向」が強くみられる。よって、緩衝機能といった印象を和らげる機能が登場したと考えられる。

- ・社会的背景

1960年代は、高校進学率70%・大学生100万人を超え、若者文化の創造期といわれている。よって、若者の言動が注目されるようになり始めた。また、1960~70年代前半の高度経済成長期に価値評価が置かれていた「まじめ」「努力」といったものが、豊かになることで価値が薄れ、人々は消費活動を積極的に行うことで娯楽を行った。しかし、消費活動に参加できない若者は、娯楽の手段としてことばで遊ぶようになったと考えられる。そこで、

若者が用いる言葉が、ますます注目されるようになったのである。さらに、おしゃべり社会が広がることで、大げさな表現や新しく奇抜な比喻表現が出現し、若者が使用するようになったと考えられる。

③言葉の規範について

言葉の規範を、「従わなければならないもの」だと考える人が多いのではないだろうか。しかし、ここでいうことばの規範とは、国立国語研究所の『言葉の「正しさ」とは何か』によると、「ことばによる社会生活を円滑にすすめていくためのもの」なのである。そこには、長年広く社会に流通しており、「こうあるべきだ」という理想が表されている。敬語表現がその例である。目上の人には尊敬語を使うべきだ、身内のことは謙譲語を使うべきだ、というように、敬語表現には多くの「規範」が存在する。しかし、ここには絶対的な支配はない。社会の中での使い方をものさしにして、「自分は使わない」ということだけで「この表現は正しくない」と評価しているにすぎないのだ。

4. 考察

①若者言葉の持つ特徴・機能から、確かに仲間内でしか通じない表現や特別な意味を含む言葉があることが分かった。しかし、このような機能は、業界用語や他の集団の言葉にも当てはまり、これだけでは若者言葉が批判されている原因とは言えないと考えた。

②若者言葉発生の背景には、使用者である若年層の人々の心理的要因だけでなく、社会的背景も関わっていることがわかった。このことから、若者言葉は、今の社会の状態も表していると考えられる。

③今の若者言葉を使わない世代は、「自分は使わない」ということだけで「この表現は正しくない」と評価することから、「間違っている」と批判すると考えられる。この考察が正しければ、将来はわたしたちが下の世代の若者言葉を批判するようになるのではないか。実証には至ることができなかったが、若者言葉の今後の動向に注目したい。

5. 結論

若者言葉は若者が仲間内で使うことばである。だから、関係のない周囲の人々にとっては意味がわからないものだと言える。しかし、ことばの規範における「自分は使わない」ということだけで「この表現は間違っている」とみなしてしまうことから、今の若者言葉を使う人は不自由なく使い、今の若者言葉を使わない人にとっては批判の対象となってしまう。

6. 参考文献

- ・米山明彦『若者語を科学する』明治書院 1998年
- ・鈴木義里『日本語のできない日本人』中公新書ラクレ 2002年
- ・国立国語研究所『言葉の「正しさ」とは何か』 2004年
- ・山口仲美『若者言葉に耳をすませば』講談社 2007年
- ・米山明彦『集団語の研究(上)』東京堂出版 2009年

7. 謝辞

研究の進め方についてメールでご助言をくださいました、大阪大学大学院言語文化研究科日本語・日本文化専攻の小矢野哲夫先生、また、GLHS 合同研究発表で発表することを勧めくださり、いつも傍で助言をくださった、本校国語科の垣内健太郎先生をはじめとする SSH の先生方、発表時に助言をくださった大学の先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。